



「活きている ことわざ」

船橋市議会議員（無所属・4期）

神田 廣栄（かんだひろえい）市議会報告

【事務所】

船橋市前原西 8-24-8

☎047-490-3333

Fax 465-7117

Eメール hiroei@muc.

biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

hiroei.jp

今昔（こんじやく）の感・紆余曲折（うよきよくせつ）

【今昔の感】◇昔のことを思い出して、現在と引き比べるときの感慨。昔とはあまりにも変わってしまったという思いを抱くこと。

《類句》隔世の感。

《別表記》「今昔」は「こんせき」とも読む。

【紆余曲折】◇道などがうねうねと曲がりくねるさま。転じて、面倒な事情があって、複雑な経過をたどること。

《類句》盤根錯節（ばんこんさくせつ）、羊腸小徑（ようちやうしょうけい）。

新年早々の1月12日に68回目の誕生日を迎えました。私が子供の頃は、周辺で60歳を超える人の中には、腰が曲がったりして「老人」という表現が特に変に思うこともありませんでした。60歳の還暦になると、赤いちゃんちゃんこを着て写真に収まっているのを良く見ました。ふと振り返ると『今昔の感』を禁じえません。

現在は65歳以上が「高齢者」、75歳からは「後期高齢者」などと呼ばれています。以前、この「後期高齢者」と表現することに不満を言ったことがあります。「後期」の次は「末期しかないじゃないか」と。

次は末期だってさ



「少年」「青年」「壮年」とか、いろいろ年代別に表現されています。

現在「高齢者」と呼ばれる方々の多くは「まだまだ青年だ」の心意気を持っているのではないのでしょうか。

今年の1月7日の新聞の1面に「70歳まで働きますか」という大きな見出しを見つけました。「70歳の新人」。日本では当たり前になるかもしれない。等の記事とともに「今のうちに、65歳以上を高齢者と呼んでいるのは、1950年代半ばに国連が出した報告書がきっかけで、半世紀以上前の話で、65歳という年齢で区切った〈支える・支えられる〉の関係の転換を迫られている」とありました。

私は1951年生まれですから、その頃に決めた区切りでの呼び方をまだ使用しています。「人生100年時代の到来」とよく聞きます。健康な方ばかりではないと思いますが、65歳を過ぎた方も、まだまだ体力的に衰えてはいません。「あなたはもう高齢者」と決めつけ、精神的にダメージを与えているのではないのでしょうか。



船橋市は「敬老行事交付金」を各町会・自治会に交付しています。この制度ができたのは昭和55年で、対象者は65歳以上でした。ちなみに交付金は一人あたり1500円でした。途中で交付金が1500円から2200円に、また2000円に下がったりしていて、平成14年から対象者を70歳以上に引き上げ、交付金は2000円となっています。平成22年からは対象者を75歳以上と改正し現在に至っています。昨年10月1日現在、65歳以上の方が

151,822人、その中で、75歳以上の方は76,110人となっています。船橋市全体の人口が約633,000人ですから、65歳以上の高齢化率は23.87%となります。その割合が7%を超える

私たちの中で一人が高齢者だって



と高齢化社会、14%を超えると高齢社会、21%を超えると超高齢化社会と言います。国や千葉県では26%を超えています、本市も確実に超高齢化社会となっています。4人に1人が「高齢者」と言われているわけです。その65歳という年齢区切りの変更を訴え続けていきたいと思っています。

次の話題です。船橋駅前の西武デパートが昨年閉鎖されました。

「その跡地に新たな文化ホールや、市の施設を作ったり、上部にはマンションを作るらしいですね」とよく聞かれます。今回はこのことについても書きます。

私たち議員に、12月議会で企画財政部より、A3で16ページの「西武船橋店再開発計画」が示されました。これにはイメージパースや立面図、各階平面図が添付されています。地下2階、地上48階で、3階までが商業施設、4～8階の一部にホール。6～48階に住戸となっています。船橋駅前に素晴らしいビルが出来るんだな、と思ってしまいます。

経緯を述べます。この跡地は、(株)そごう・西武、(株)セブン&アイ・クリエイトリンクが協議相手方です。「西武船橋店は平成30年2月28日をもって営業終了する」と平成29年8月に報道されました。船橋市は平成29年10月から協議相手方と、営業終了後の跡地活用を協議始めました。跡地再開発は協議相手方が作成して市に提出したものです。

西武船橋店が営業終了してすぐに、市は協議相手方に「ここは市の表玄関。今後の半世紀を見据えてまちづくりをしていきたい」と伝え、市は財政状況が厳しいため、市の財政負担が少なくなるような提案を要望しました。

この後すぐ、船橋市商工会議所から市長あてに、地元の声を取り入れた開発を進めて欲しい。また、船橋市にとってもシンボリックなものになるよう株式会社そごう西武に依頼して戴きたいとの要望書が出されています。(主な要望事項は、500名以上収容規模の集客施設、2000席程度の音楽ホール、大型バスが駐車できるスペースなど)

将来、この跡地に市の意向に添ったビルを権利者側が建設した場合、市の施設はリース契約(賃貸)となるのではないかと思います。

この跡地の活用は、まだまだ『紆余曲折』があると思われます。その一つが、現在※容積率 600%のこの跡地を1000~1100%にして貰いたい、と協議相手方から要望があるのです。600%だと採算が合わず、最低でも1000%以上にして採算ベースに載せたいわけです。

※容積率とは、建築物の床の延べ面積と、土地面積との比率のことで、数字が大きくなると、より建築面積を大きくできる利点があります。

このようなことも含めて、様々な思惑があり、西武船橋店再開発計画は、現在のところ白紙の状態である、と言っても過言ではありません。

直ぐにも出来るものと勘違いされておられる方もいらっしゃるようなので、現状をお伝えいたしました。もちろん私も市商工会議所の要望などが実現することを強く望んでいますので、その実現に微力ながら協力してまいります。

